

コンテンツ保護(LCP)

2019.3.19

LCP WGリーダー

三瓶 徹

LCP(Licensed Content Protection)

- EDRLab (European Digital Reading Lab) が中心になって作ったLCPは、ISO/IECでの規格化が2018年から始まっている。ISO/IEC JTC1/SC34 JWG7(EPUB)に村田 真が参加してLCPの動きを監視しつつ、日本でどう利用できるか検討する。もちろん使わないという選択肢もありうる。

- Radium License Status Document 日本語抄訳のご紹介
村田 真 訳

仕様書

<https://github.com/Advanced-Publishing-Laboratory/readium-lcp-specs/blob/japanese/Japanese/readium-lcp-draft.md>

License status document仕様

<https://github.com/Advanced-Publishing-Laboratory/readium-lcp-specs/blob/japanese/Japanese/readium-lsd-draft.md>

LCPはヨーロッパの図書館を中心に普及が始まっている

社名	国	内容
CSPLA	フランス	CSPLA 機関はEPUBの宣伝広報活動を行い、Radium LCP導入目標を提示
Hachette	フランス	Radium LCPを導入した電子書籍貸出サイトを展開
ePagine	フランス	電子書籍販売及び貸出サイトに導入計画でフランスの会社と協議中
Feedbooks	フランス	電子書籍販売サイトにRadium LCP導入をサポート予定
Learning Ally	アメリカ	非営利団体。2015年初めてLCP基盤のアプリケーションを提供。1948年から視覚障害者やディスレクシア、その他普通の印刷物を読むことが困難な人のための教育用オーディオブック・ライブラリを運営管理している。
ケベック市 デジタル図書館	カナダ	ケベック市にあるデジタル図書館でRadium LCPを導入し電子書籍貸出サービス提供中
Blackwell's	イギリス	Blackwell Learning eBook platformに Radium LCPの導入予定

DRMを使わないという選択も

- 音楽の場合は、前衛音楽でもない限り、聴いて心地よくなることから、大量に収集したいという欲望にかられるが、書籍は音楽と異なり、読むのに集中力と時間が必要なことから、マンガと写真集、試験の参考書や大学の教科書を除き、収集やハッキングの対象にはなり難いのではないか。
- 強いDRMはパソコン内を流れる平文の信号が盗まれないよう、セキュリティを強化しているが、紙面をスキャンするのと同様に、パソコン画面をスマホで撮る行為には無力。しかもコピー機で安くコピーできる環境がある中で、電子だけDRMに血眼になっても意味がない。
- 分野によっては、強いDRMではなく、法律での援護があれば足りる分野もある。

DRMを使わないという選択も

本には、雑誌、漫画、文芸書、ビジネス書、実用書、専門書、学参書、絵本、辞書、事典というジャンル分けの他、

- 値段の高い本、安い本、無料の本、
 - 沢山売りたい本、限られた人を対象にした本、主に図書館に買って貰う本、
 - 小説のように頭から尻尾まで読んで貰う本、必要なところだけ読めば済む本、教科書のように何度も読んで貰う本、
 - 広告が多く載った本、読み捨てる本、大事にとっておく本、
 - 子供向け、学生向け、ビジネスマン向け、老人向け、
 - 厚い本、薄い本、面白い本、読むのが苦痛な本など、
- 色々な評価軸がある。

何故、AppleはDRMをやめたのか

所有から利用へ

モノを「所有」することから、「利用」することに消費者の需要が変化している。（ファッション、車でも始まる）

先行するサービス

定額音楽聞き放題

Spotify, Apple Music, Google Play Music,
Amazon Prime Music, レコチョクBest

映画見放題

NETFLIX, Amazon Prime Video, TSUTAYATV, hulu, U-NEXT

定額読み放題

Kindle Unlimited, dマガジン, 楽天マガジン,
ブック放題(ソフトバンク), ブックパス(KDDI)等

Shibboleth認証によるVO・コミュニティ管理



- **組織横断のサービス連携**
VO (Virtual Organization) メンバーが、情報共有、共同作業を行うための共有連携サービスを提供。

VOメンバーが利用するサービス

特定分野の研究者間で、特定の情報共有を行いたい

VO研究費で、簡単に電子情報のライセンス購入をしたい

学内サービスともシームレスに連携してほしい

メンバー内共有の学外クラウドサービス権限管理を簡単にやりたい

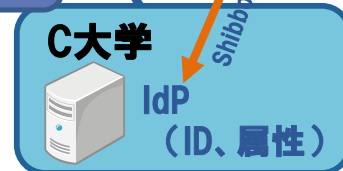
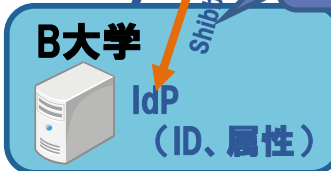
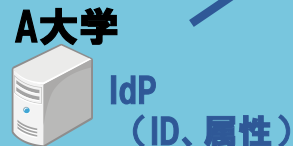
VOができれば、直ぐに共有サービスを利用したい

VO(共同研究プロジェクト等)



VO属性、マッシュアップ対応によるVO共有連携サービスを実現!

VO管理システム (VO属性)



情報サービス連携コンソーシアム事務局 資料より